Vol.11　XM7 コードの構造を確認してみる　～その 1～

では、vol.11、始めていきましょう。

今回は、メジャーセブンスコード(XM7)の構造を、指板上で確認する為のフレーズを弾いて行きます。

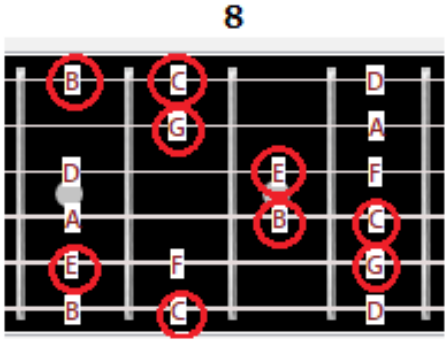
XM7 の構造は root、M3rd、P5th、M7th なので、ルート(トニック)を C 音に設定すると、CM7 となり、構成音は C、E、G、B になりますね。

代表的なコードの見方には、6 弦ルートと 5 弦ルートがありますが、今回は 6 弦ルートの方を見ていきましょう。

CM7 がダイアトニックコードに含まれるキーには、C キー(もしくは Am キー)と G キー(もしくは Em キー)がありますが、ここでは C キーの Ⅰ M7 と見て、C メジャースケールを基準にします。

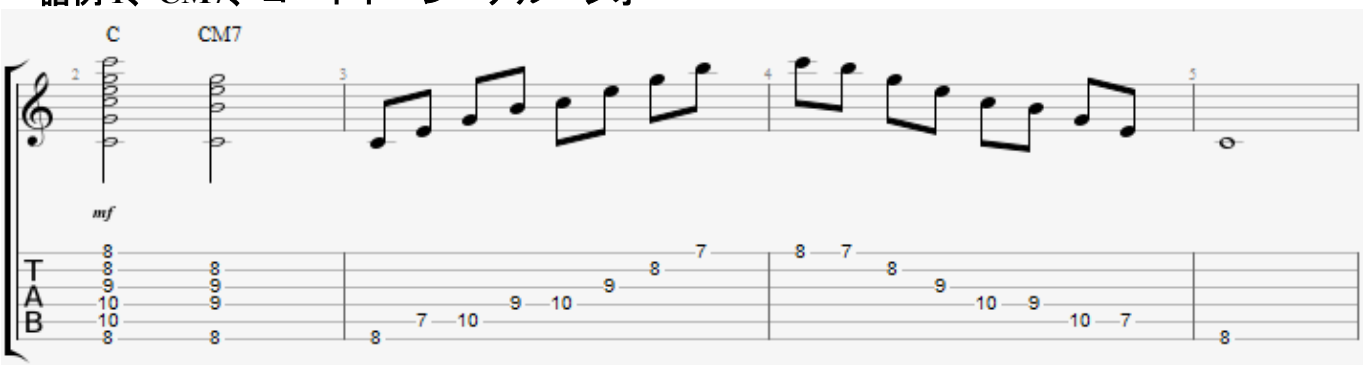
(※とは言え、XM7 の構成音(root、M3rd、P5th、M7th)だけを見るならば、G キーのⅣ M7 と見ても、構成は変わらないのですが)

ポジション的にはここで、CM7 の構成音である赤丸の付いた音を弾いていきます。



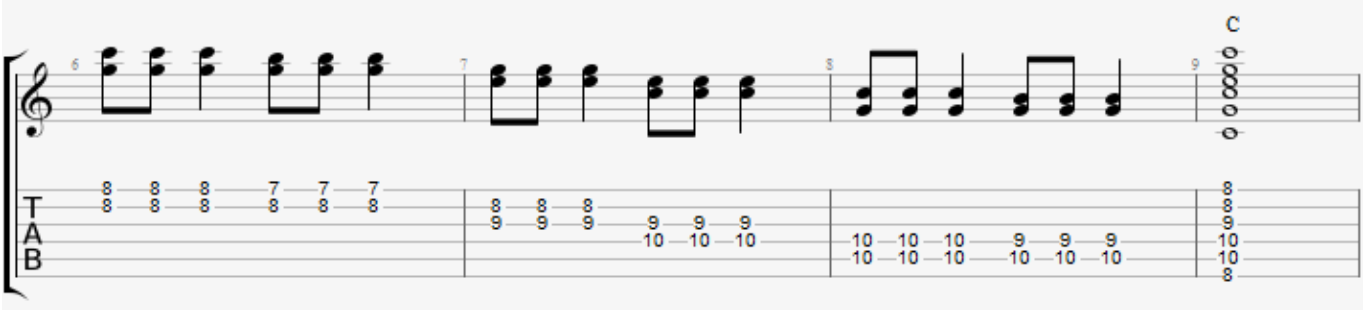
それでは譜例は以下になります。いつもの様に、譜割りは便宜的なものです。

譜例 1、CM7、コードトーン・アルペジオ



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

譜例 2、CM7、ダブル・ストップ系フレーズ



譜例 1 のアルペジオは定番中の定番で、そのままフレーズとして使う事も多いです。

今回は C 音ルートでやりましたが、他の XM7 コードのアルペジオとしても使えるので、音の配置を手に馴染ませておきましょう。

その内、指板を見なくても弾ける様になりますので。

譜例 2 は、今回指定したポジション内で、XM7 の構成音をダブル・ストップ(重音奏法)で弾いて行ったフレーズです。

譜面にしたフレーズでは 2 音を同時に慣らしていますが、単音でバラバラに弾いてみても良いでしょう。

この両譜例がスムーズに弾けるようになると、XM7 系のアイディアをベースにしたフレーズが非常に作りやすくなります。

ちなみに余談ですが、重音奏法の内、2 音を同時に鳴らす事をダブル・ストップ、3 音を同時に鳴らすことをトリプル・ストップと呼び分けたりもします。

かと思ったら、2 音でも 3 音でも、全部ひっくるめてダブル・ストップと呼んでいる事もあるので、その辺りは文脈で判断してください。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved